

形成外科

1. 概要

診療内容は、皮膚外傷、指尖部切断、熱傷、瘢痕形成、皮膚良性腫瘍、あざ、顔面骨骨折、悪性腫瘍切除後再建、褥瘡、先天奇形などである。一部の皮膚良性腫瘍、母斑などに対してはQスイッチルビーレーザー、炭酸ガスレーザーによるレーザー治療も行っている。血管腫に有効なレーザーは当院には導入されていないが、レーザー専門医の代務医師による血管腫外来を月2回行っている。

最近の傾向としては創傷に対する湿潤療法を積極的に行うことにより、従来手術を要していた熱傷、外傷性皮膚欠損、指尖部損傷、褥瘡なども多くが保存的治療のみで治癒するようになってきており、それに伴い手術件数はやや減少している。

当院では対応できない手術症例では大学病院（名大、愛知医大）とも連携して常に最新、かつ高度な治療が提供できるように心がけている。

(柏崎 喜宣)

●疾患別頻度

総件数：2,069件

